

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習B	1・2・3	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業では、TOEICテストが扱うビジネス・社会生活の語いや表現を学修することと並行し、実際のビジネスや社会のしくみ・慣行・変化について、特に欧米と日本の違いに焦点を当てて説明し、TOEICテストの範囲でありながらも学生が苦手とする分野についての理解促進を図った。 また、所属する学年の違いにかかわらず、個々の履修生のレディネスそのものに差があるため、それぞれの実力レベルに合わせ、宿題の添削などを通して個人指導に努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	現行カリキュラムで例年1月に実施してきたTOEIC IPテストにおいて、1年生の平均スコアは400前後(本年度は389.9)で推移しており、これはほぼ英検準2級相当レベル(390点程度とされる)となる。当科目はほぼ英検2級(530程度)に相当する実力が求められるため、1年生には難易度の高い科目である。TOEICテストで500点以上を取得することが単位認定の前提条件であるため、今期も不合格・放棄が48.3%と、ほぼ半数の受講者が単位取得に至らなかった。 しかし、当科目受講者全員の平均スコアは509.5、1年生に限っても497.4であり、上記の389.9と比較し、有意差が見られる。 全体では、成績で「秀」評価が7名であり、これは「到達度自己評価」各項目で5点としている6～9名とほぼ重なると思われる。成績が「優」から「可」までが8名であったのに対し、自己評価で4点としている回答が7～14名となっている。これは、授業開始早々に実施した模擬テスト(平均436.7)に比べ、不可となった学生も含み、それぞれ成長を実感しているためであろうと推測される。 授業では、一定のTOEICスコアに到達しない場合に単位取得ができないという当科目の特殊性があり、指導にあたっては、単位取得よりも、各自の実力レベルに応じた英語情報処理能力の向上に主眼を置いてきた。「授業の質」についての評価は分かれているが、平均で4.1から4.3であることから、テストスコアも概ね向上しており、教育目標としては、「やや達成された」と考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の取り組みは、TOEICテストスコアの向上のみに向けられがちだが、当科目では、TOEICテスト受験準備の学修ではなく、グローバル人材として必要なビジネスや社会のしくみ、日本と欧米とのビジネス慣行や社会の仕組み、文化の違い、IT化の現状などを取り上げることで、該当するDP方針に沿った運営を心掛けた。 学修に取り組むことで、DP方針が目指す資質を自ら育てていく態度が形成され、また並行して、グローバル社会に寄与するために必須となる、英語運用能力の向上につながっていると考える。従って、CPIについても、単位取得に至った学生についてはその目標を達成できたと思ふことができ、到達スコアが400台の学生についても改善を促すことができたかと判断している。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業が目標とするTOEICスコア獲得に必要な語い・表現力については、授業と併せてハンドアウトや講義資料システムを通じて提供した。また、学習上注意すべき点を中心に、提出物への添削で理解を促すように心掛けた。 復習宿題(リスニング)の返却が遅かったとの意見については、真面目な学生からの当然の不満として受けとめる。これは、教科書準拠のリスニング宿題については、宿題への取りかかりが遅れてしまう学生を切り捨てないよう、大多数の学生の提出を待った上でフィードバックするよう配慮したことが原因となっている。ただ、現在の「コミュニケーション重視」＝英会話中心の中等教育を受けてきた学生にとって、英語力の向上には、TOEICテストであればリーディングセクションへの対応能力を強化することが喫緊の課題となっている。当科目ではこの観点から、TOEICテストが測る英語構造の知識共有を優先して、最大多数の理解が得られるように努めたことを汲み取ってほしい。 結果として、「授業の質」への評価は4.1から4.3程度であり、授業内容については学生のニーズに沿い、また一定の結果につながったものと理解している。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	1月に実施したIPテストの1年生の平均スコアは389.9であったが、当科目受講の1年生のTOEIC平均スコアは497.4となり、受講生全体では509.5であった。後期期首に受講生に対して実施したTOEIC模擬テスト(公式問題)の1年生のスコア平均が418.7であったことから、科目としては十分な達成状況にあると考える。 しかし、個別のスコアに伸びはあったものの、半数近くの学生が単位取得に至っていないので、総括的には、上記の通り「やや達成された」とした。 学生諸君には、今後も英語力向上の取り組みの一環として、スコアによって実力が可視化され、客観的な評価にもつながるTOEICテスト受験に、継続的に取り組んでいってほしい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習D	1・2・3	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	当科目の受講生7名は、単位取得の前提条件であるTOEICスコア650に到達することを第一義的な目標にするレベルから、800超えに挑むレベルまでに分布していたため、それぞれのレベルで必要な知識の習得に配慮して、授業を準備した。 受講生は各自の実力レベル、弱点をよく把握した上で明確な目標スコアを設定しており、極めて高い目的意識を持って授業に臨んでいた。 授業に当たっては、毎回模擬テスト方式から入るため、テキストの予習を課さず、毎回相当量の復習宿題に取り組んでもらった。また、講義資料システムで自習用の音声資料や語彙リストを提供した。以上の取り組みを励行すれば、少なくとも各自の初期目標に到達するように授業を設計した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が単位取得に必要なTOEICスコア650を上回り、最高スコアは815(3年生)であった。昨年1年次に受講して単位取得に至らなかった3名が今期も再履修し、いずれも700点台を取得し、また、入学後初回のTOEICテスト受験で300点台であった学生も、継続的な取り組みで600点台後半から700点台前半のスコアを獲得した。 以上の結果、平均スコアは725.0であった。 「学習到達度の自己評価」においては、TOEICテストの最終スコアが判明する前の段階で各人が5としており、自らの成長について、手応えを感じていたことが読み取れる。 「学習量」については、それぞれの実力、目標スコアによって差があるが、各人の獲得スコアを見る限り、適切な準備をしていたのだろうと推測される。 「自由記述」では、それぞれに自身の英語力の成長を実感している。各受講生の目標達成に向けて、当授業で支援できたことを嬉しく思っている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	TOEICテストは、英語による情報処理能力を測り、社会的な立場の違いや諸事情を汲み取って判断する能力を問うテストであり、そのスコアが660から815に分布し、平均で725.0であったということは、DP-1、DP-5について、各受講生それぞれのレベルで十分な力をつけてきていることの現れだと判断される。 授業への取り組みについては、教員にとって理想的なほど真摯かつ前向きであった。DP-4が求める能力がしっかりと築かれてきていることを窺わせる。 以上の成果から、CPの到達目標は達成されたと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質については、いずれも5として評価されており、今期の進め方は、肯定的に受け入れてもらえたと理解している。 特に、昨年1年生として授業の難易度への知識がないまま当科目を履修し、単位取得が難しいと分かって、諦めずに授業に取り組んでいた3名の2年生が今期も受講し、全員が700点台(710～770)を取得した。また、2年生3名、3年生1名は前期のTOEIC演習科目を受講しており、他にも研究室で学習を続けた学生もいるなど、これらの努力の積み重ねが好結果につながっており、TOEICテスト受験における継続性の重要性が示されている。新カリキュラムでは前期にTOEIC科目がないため、学生への授業外の支援を継続していただきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	受講生全員が到達度、授業評価共に5としており、過去5年間の勤務の中でも最も手応えを感じたクラスとなった。なによりも、教員としてこの科目で学生諸君の役に立てた、という達成感を得ている。貴重な経験をさせていただいた学生諸君に感謝したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	1・2・3・4	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 受講動機をみると「単位数を確保する」54. 2%、「関心のある内容である」29. 2%となっております。学生の関心を引き出し、もっと多くの学生に履修してもらえよう、シラバスの作成に工夫する必要があると思われる。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目にレポートを提出してもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては93%、意欲関心に関する問題は93%、態度93%であった。それぞれの目標がやや達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、意欲関心、態度の観点での自己評価に差がないことが示された。 図書館の利用に関しては、8%で、インターネットの利用に関しては、16%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心、態度に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「アジアの歴史と文化」であるが、英語学科の学生にとっては「海外研修」をつなぐ要の位置にある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という質評価の平均値(点)は、昨年度と変わらず、4.0となっている。次年度に向けては、学生の質問を受け付け、それに答える機会をもっと作っていききたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「アジアの歴史と文化」であるが、英語学科の学生にとっては「海外研修」をつなぐ要の位置にあるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、意欲関心、態度を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機について、約6割の学生が「関心のある内容である」と回答している一方、約5割の学生が「単位数を確保する」と回答しており、受講動機に大きな開きが見られる結果となっているが、実際には、受講するにあたって積極的な態度で臨んでいる姿勢が多く見られた。1年生である本授業の受講生にとっては、卒業後の進路を考える第一段階になるとも考えられる科目であるので、社会の経済活動の要である銀行や証券会社を訪問し、その業務に触れることで、今後の自らの進路を考えるきっかけにしてもらいたいと考えた。また、北九州市の現状についての講演を聞くことで、身の回りで実際に起こっていること、課題などを理解し、その課題の解決方法を自ら考え、その方策について聴衆によく伝わるように発表することができるよう段階的に指導することを計画した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル以上に達しており、再試対象者は0名であった。到達度自己目標についても、1名が「自分なりの目標を達成した」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の4つの項目について「少しそうでないと思う」と回答した以外は、すべて肯定的な回答であったことから、概ね目標は達成できていると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付けから見ても内容的妥当性 本科目は卒業後の進路についての考察を深め、必要な技術を習得するための科目であるが、1年生を対象とした科目であるため、基礎的な内容を扱うことに留意し、段階を追って指導するよう工夫した。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 最終的な課題について、知識や表現の方法について、若干課題が残る部分もあったが、概ね行動目標を達成できていた。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価については、全項目についてすべての学生が肯定的な回答を しており、6割近くの学生が「かなりそうだと思う」を選んでいる。このこ とから、授業の進め方については、適切に行われていたと思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生が主体的に参加する場面が多い授業で、内容も学生にとって興味深 いものだったため、学生の受講態度も良好で、学習時間もかなり確保さ れており、また成績も概ね良好であった。一人一人がそれぞれのペースで 取り組みやすいように工夫した教材を使っていたため、学生の参加の度 合いや満足度が高かったのだと思われる。この授業の手法を他の授業に も取り入れていきたいと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「学生の授業評価アンケート」(学科42名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「資格取得」が2.4%であった。ほとんどがキリスト教の成立に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、評価基準を明示した。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「13、10、22」で97.83%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「1、0」で2.17%、無回答が「0」であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや 例えは、可能な場合には看護と関係のあるものを用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は79.04点であった。分布的には、90点以上が10.87%、89～80点が41.30%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は52.17%であり、79～70点が34.78%、69～60点が13.04%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは47.82%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 46名の学生の＜知識＞＜理解＞に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「13、11、20」と「11、12、21」でいずれも95.65%で、それぞれ否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)に「1、1」と「2、0」でいずれも4.35%であった。アンケートが試験前の実施であるが、ほぼ成績分布と平衡が取れていた。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「10、13、20」と「10、10、22」で93.48%と91.30%であったのに対し、否定的回答は「2、1」と「3、1」で6.52%と8.70%となった。④ 専門分野でも意欲関心に関する＜意欲＞では肯定的回答は「11、11、21」で93.48%であり、否定的回答は「2、1」で6.52%であった。⑤ さらに専門分野の技能表現に関する＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得では、肯定的回答はそれぞれ「10、10、23」「9、12、22」でいずれも93.48%であったのに対し、否定的回答はいずれも「2、1」で6.52%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「9、14、21」で95.65%であったのに対して否定的回答は「1、1」で4.35%であった。⑦ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「8、11、23」で91.30%であったのに対し、否定的回答は「3、1」で8.70%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞ではいずれも4.35%であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞ではそれぞれ6.52%と8.70%、＜意欲＞も6.52%であり、＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得ではいずれも6.52%、＜倫理・規範＞に関しては4.35%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞、及び、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、これらの分野では否定的回答がいずれも4.35%であった。これに対し、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞の否定的回答はそれぞれ6.52%、8.70%であるのに対し、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答はいずれも6.52%であった。③以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野でも専門と技能表現の分野でも90%以上であり、授業内容は妥当であると考ええる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考ええる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	クラスの学生からの担当教員へ日頃の意見は、知識と理解に關しての難しさにあるが、これまで見てきたように1乃至2人の学生がそのように回答している。いわゆる重要事項を暗記し正しい答を選択するという内容の授業ではなく、「自分の大切さに気付く自己理解」それと同様に「他者の大切さに気付く人間性」を軸に、聖書から「愛」「赦し」「弱さ」「逆説的自由」とは何かを、現代の状況に照らして問題を投げかけ共に考える授業を行った。今後も、復習しつつ前に進む授業と心がけ、学生とともに進む授業を工夫したい。② 学習量の評価を見ると、＜授業の記録＞＜1回30分以上の予復習＞の「1回」がいずれも11乃至12名であり、「2、3回」は同様に7乃至8名であるが、いずれも「4、5回」が2名、「6回」が8名である。「0回」がそれぞれ16名と18名である。成績の差は、この差と比例しているように見受けられる。進め方に関する授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「13、10、22」であった。＜理解しやすい＞という項目では、「11、12、21」で、ただ否定的回答は「2、0」であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「12、9、23」で、否定的回答は「1、1」であった。＜参加の機会＞でも否定的回答が「1、2」少なく、肯定的回答は「11、10、22」であった。④ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1)記録しない学生への対応として、知識を整理できるようにプリントして配布すること、2)予復習の方法を具体的に指示すること、3)毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にすることは今後も必要である。評価基準の明確性につき1名が「少しそう思わない」と回答した。最終的に試験を受けた者が全員単位を取得できたが、より明確にしたい。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに 学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものである。つまり、この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。＜授業の進め方とその向上について＞記載した改善策に取り組み実学としての成果を上げていくことが今後も必要である。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にする。授業を進めるに当たっては、板書とプリント配布を活用し、予復習の方法を具体的に指示すること、学生から回収する「自己学習記録」から授業の理解の共有に役立つ指導を今後も工夫することが考えられる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハンゲルⅡ	1・2・3・4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	初級レベルの語学力を身につけることがこの講義の目標であることと前期の「ハンゲル1」に引き続き受講する学生がほとんどであることから、授業動機が「関心がある内容のため」が最も多いのも納得できる。 また講義内容の節目に小テストを実施することにより学生に学習状況を認識するようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の平均成績は79.95点と高い達成度を見せた。 また到達度自己評価の全項目にわたり高い評価を得られている。特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が最も高い評価を受けたことから当初の目標に達したと思われる。また外国語、つまり言語を取り上げる本講義が「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」でも高く評価してもらったことは大変励みになった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみでの内容の妥当性 授業評価の「情報利用」で見られるように多くの学生がシラバスを参考に受講を決めたと答えている。授業は計画通り進み、「授業の質評価」で示すように学生たちの満足度も高かったことが分かる。 ②DP、行動目標からみでの内容の妥当性 学習量評価をよると、教材を用いた予習・復習には時間を割けなかったが、担当教員への意見によると、自分が興味のあるもの、例えばK-popで韓国語の発音練習をしたり、動画を見て聞き取りをしたりと多様な取り組みをしていたことが分かる。シラバスに明記しているように「積極的な姿勢での授業参加」ができたことが分かる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全項目において高い評価を得られていることから授業進行に問題がなかったと思われる。学習量でも各自のレベルに合わせて学習を進めているので問題ないと思われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生からの「到達度自己評価」や「授業の質評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容と思われる。西南女学院大学における講義は2017年度まで担当することとなったが、満足いく結果を得ることができた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ビジネス英語入門	2・3・4	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①実際に受講した19名中、4名だけが3年生で、残りの16名は2年生とのことで、カリキュラム上ビジネス関係の英語は全く初めて学ぶ人たちが中心であることを念頭におき、ビジネス英語の基本の基本をゆっくりすることにした。②2017年度で二年連続の担当となり、英語学科の学生には、ビジネスの面での学びも重視できるようにした。その理由は、英語ができる学生でも、学習準備性として備えておいてほしいと思う、ビジネス面の知識が弱いからである。日頃、新聞・雑誌を読む習慣を身につけさせることが必要である。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績は、A21.1%、B26.3%、C15.8%であり、ここまでで63.2%を占めている。この層は、理想的レベルに至ったが、Eも2名いた。②知識理解については、試験や小テストで記述式の問題を出しており、知識についてかなり習得されていた。しかしながら、応用問題記述的な出題になると、正当率が落ちることから、理解については基礎的な理解にとどまっていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①主に2年生を中心に受講していることから、この時期に入門的な知識を習得することは、意義あることだと推定する。学科の科目にこの科目を発展的に継承する科目があり、ビジネス英語の入門的な内容の妥当性はあると思われる。②学習量の評価では、授業に参加するために、一回30分以上の準備をどれくらい行いましたかの項目では、③4.5回以上が7名である。30分以上の復讐については、③2.3回以上が6名となり、さらに減る。復習0回が7人おり、定着させることの困難さは残る。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①自由記述では、「教員のペースではついていけないから生徒に合わせた方がいいと思う」とあった。学生のどのあたりに合わせるのかは難しい所であるが、予習をしていない学生にわかる授業をすることは不可能と考える。②「効率が悪いと思います。毎回毎回授業内で誰に当てているのが、わからずとまります。テストのやり方にも効率が必要です」とあった。英語の単語の音読を順番にさせたが、発音記号が読めない場合、予習をしていない場合等の層を少なくする必要がある。毎回の小テストは英語の書き取りであるが、評価に直結するテストであり、慎重に実施するためにはどうすべきかを改善する必要はある。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①人文学部の両学科の2年生以上の選択科目であり、大教室での60名(履修登録者数)を超えていたクラスサイズである。静穏を保ちながら、話を聞かせるスキルを磨く必要がある。日ごろの授業から不正行為をさせない雰囲気作り、またそれが起きた際には、クラスの雰囲気を沈めないようにする配慮が必要である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションⅡ	2・3・4	後期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当て、授業を運営した。視聴覚教材等の使用により、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し、社会的出来事を広く深く考える機会を履修生に与えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づき、上記のような判断を下すに至った。「態度」が、「達成された」ではなく「やや達成された」になったのは、予習復習時間・情報利用・図書館／インターネット利用の項目で、高得点でなかったことによる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「受講動機」で一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当てながら、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大した本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づく、授業の進め方については、特に問題はないと思われる。さらなるアクティブ・ラーニング化をめざして、何が できるのか／何をすべきなのかを、継続的に模索していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づく、授業自体の質は高く評価されていると考えられる。授業の内容上、予習復習・情報利用・図書館／インター ネット利用を特に必要としない授業をデザイン・運用してきた。このことが「課題」であるかどうか考え、改善の必要があれば、その改善に努めたいと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	村田 希巳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英検演習B	1・2・3	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この学科は、英検2級を合格しなければ、単位を与えることができないクラスだ。英検合格のためには、単語力、作文力、リスニング力、文法力、読解力の5つが必要となってくる。そのため、毎回単語のテストを行うことで、合格に必要な単語力をマスターしてもらった。さらに英検の問題集を解くことで、単語力、リスニング力、文法力、読解力を鍛えた。つまり学生には、単語のテストの準備と問題集の予習を必ずしてくるよう、要求した。授業では、それに合わせて、作文力強化に取り組んだ。かなりの頻度で、作文を書かせ、論理的に書く方法を示唆し、テスト対策に当たった。この厳しいやり方に、ついてくる学生は少数だったが、そのうち一人しか合格しなかったのは、とても残念だった。頑張った学生には全員合格してもらいたかった。いずれにせよ、実力が上がらないと意味のないクラスなので、私も学生も最も準備に時間のかかるクラスだった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された		やや達成されなかった	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回単語のテストを行ったが、10点満点の平均が、4点くらいで、なかなか単語を覚えるのに苦労しているようだった。予習は毎回調べたので、きっちりやって来ていた。予習の準備性は満点だが、単語で多くの学生が挫折していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	英検2級を目指す学生が来たが、単語力の多さに挫折していつているようだった。もっと学生に合わせて、基礎から教えたいのだが、合格ラインまで達成するのに、負荷がかかる授業だった。学生の学力には、少し重すぎる内容だった。でもそれぞれの学生の実力は伸びているのは、間違いないが、合格まではあと1歩だった。DPは、平均点が4.3で、中央値も4.3。「知識を確認、修正したり、新たに得た、と答えた人が、4.5だった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生は、だんだん現実の重さを認識してくれたと思うが、英作、単語、リスニングを鍛えるのに、時間が足りない。限られた時間で合格ラインまで、実力を伸ばすには、精神力も大きく関わってくる。まず精神力を鍛えたつもりだが、辞める学生も多かった。単語に明け暮れた日もあった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	一人しか受からなかったのは、とても残念だ。学生はどんどん伸びているので、継続して教えていくべきだと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語で話す日本の心Ⅱ	3・4	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This continuation of the first term course focused on providing students with an opportunity to improve their ability to explain Japanese culture to tourists and anyone else interested in learning about Japanese culture. We used the textbook "This Is Japan" (Macmillan), which focuses on traditional aspects of Japanese culture through the experiences of an exchange student and a home stay family.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 4 criteria (passive participation 15%, active participation 47%, homework 13%, and a final test 25%). The majority of students received scores in the 80s and 90s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Student interest was evident ,and the skills being practiced (DP5) were both practical and useful. The average student took the opportunity to improve their skill set.
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next academic year include more frequent homework assignments and quizzes to improve student focus. In addition, more preliminary writing practice using the target language should improve the average student's skill level.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	I continue to feel that a class limit of 30 students would allow for a more productive student/teacher ratio, and more focused classroom energy. I am glad that the two departments have their own class this year.
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅱ	2・3・4	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語学概論で一般的触れられる内容を、時として減らしてでも、学生達が理解できる内容に落とし込むことを常に心がけた。特に最初の単元であった意味論は、抽象的な思考が必要とされ、「意味の意味」を定義する3つの主流となる考え方を理解させるのに、予定時間を超えて具体的例をたくさん挙げる事を試みた。その後の社会言語学や国家の言語政策においても、身近な例をたくさん準備して授業に臨んだ。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義内容が抽象度の高いものであることから、「達成された」と評するには多少抵抗はあるが、学生達は皆熱心に理解しようと努めた。授業の後には毎回リアクションペーパーを提出させているが、毎回講義内容についての興味関心が刺激されたことを記述している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である
--	-------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	一般大学レベルでの英語学概論と比べるとおそらく内容が十分網羅されていない部分があると思う。しかし本学学生の理解力を考慮した際、そうした修正はやむを得ないとする。何より、英語学全般にまず興味関心を持たせることが第一義である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	良好である。
------------------------------	---------------

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法 I	2	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分が多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。意欲的な学生が多いので、なるべく学生からの意見を引き出しながら授業を進めていけるよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は90.1点であり、再試対象者は0名であった。全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。 学生による到達度自己評価は、1、2名の学生が「まあまあそうだと思う」と回答しているのを除けば、すべての項目について「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、この点からも教育目標は達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	授業の質評価について、すべての項目についてすべての学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、授業の進め方については概ね適切であったと考える。一方で、学習量の評価については、ほぼ毎回課題を課しており、学生も毎回提出していたが、授業評価アンケートの結果からは1回30分程度の準備や復習を行っていない学生が4分の1程度いるという結果になっている。授業の準備や復習としての位置付けとして、そのことも説明して、30分以上時間がかかるとされる課題を毎回出していたが、これらを授業の準備や復習だと捉えていなかったのかもしれない。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	年度によって受講生の数や教職が第一志望の学生の数にばらつきがあるため、学生の状況を考慮して授業の方法を工夫する必要があると考えている。意欲の高い学生が多かったため、学生の参加の度合いも高く、理解度も高かった。しかしながら、学習量については、十分とは言えないので、この点を改善していくことが課題である。この科目は「英語教科教育法II」「英語教科教育法IV」へと続いていくので、今回明らかにしたことを踏まえ、授業の方法について工夫していきたいと思う。

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	ノリス 志津代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳ガイド演習Ⅱ	3・4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業初日に、今期全体の概要の説明および2コマが連続する授業形態であるため、いかに授業が展開するかシラバスをもとに具体的に説明した。学生の受講動機については、4割近い学生が「関心のある内容」と回答している。九州と出身県の知識を深め、それを英語で説明できるようにすることが英語通訳ガイドのクラスとして重要である点を強調し、積極的に英語で発言するように促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	概ね達成された	概ね達成された		概ね達成された	概ね達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	半数の受講生が知識、意欲の面で「わりに・かなりそうだと思う」と回答し、表現力を高める点については7割近くが「わりに・かなりそうだと思う」と回答している。全体として概ね目標が達成できたように思う。自由記述では、英語を使って自分の言葉で伝えることの楽しさや、タフな授業であったが楽しかったと言う声がある一方、2コマ連続のため体を動かせるアクティビティーが欲しいと言う声もあった。今後の参考にしたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の位置づけは「専門展開科目」である。知識と運用力の両面での達成が期待される。英語通訳ガイドにおいては、観光に関する知識とともに英語で説明する力が現場では求められるので、その力を向上させるよう求めた。受講生はその要求に応え、英語での発話を積極的に行い、運用力を身につけていったように思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	2コマ連続のクラスであるため、観光および九州に関する知識増強のためのリサーチと発表、リスニングと英語の発話を中心に、メリハリのある授業になるように心がけた。ペアワークを積極的に取り入れ、学んだ知識を発表する場を設けたことで、活発な授業展開が行えたように思う。今後もインプットとアウトプットのバランスに留意しながら、授業展開を工夫していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習に対する意欲が高く、2コマ連続のクラスであるが、テンポよく進んだ。ただし、体を動かせるアクティビティーが欲しいと言う自由記述があったので、来年度はこの点を受講生に確認しながら授業を進めていきたいと思う。出身地や九州について知識を高め、その知識を自分の言葉で発表する楽しさと課題を受講生と共有しながら、よりよい授業になるよう心がけていきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	ノリス 志津代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅱ	3・4	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初日の授業では、授業の進め方や課題の取組み方についてA4一枚にまとめ、学期を通して参照するように伝えた。シラパスの内容を確認しながら、どのようなメソッドを使うか説明した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された	やや達成された	やや達成された	概ね達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今期は到達度自己評価については「まあまあ」そして「わりに」が多かった。前期と後期の講師が変わったために、受講生が後期の講師の授業スタイルに慣れるのに少し時間を要した。今回のように通年の授業で後期のみを担当する場合は、アクティビティーの説明をより明確にし、学生の疑問を丁寧に拾い上げ、双方向の議論を深められるように工夫をしていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の位置づけは「専門展開科目」である。知識と運用力の両面での達成が期待される。そのため、リスニング力では、ディクテーションを毎週の課題として英語に触れる機会を増やした。一方、授業では訳出のみならず、自分の英語で言い換える練習を行い運用力の向上に努めた。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	課題が多いクラスであるが、大半の学生が準備と復習をしっかりと行った。アクティビティーの指示や目的を英語で行おうとしたが、授業の進行との兼ね合いで、日本語の説明が多くなった。半期のみを担当する場合は、指示の明確化の方を優先させた方がよいと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今回、後期のみ担当という初めての授業形態に講師自身も慣れるのに少し時間がかかった。しかし、学生がメソッドに慣れてくるにつれてテンポよく授業ができたように思う。聴いた内容を自分の言葉で言い換える等の訓練を通し、判断力や思考力を高める練習に取り組んだ。今後もスキルを習得できたと実感できるように、受講生のニーズをしっかりと捉えながら、通訳力の基礎強化に取り組んでいきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語文学入門Ⅱ	2	後期	必修	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①速読と精読の両面から文学作品にアプローチするための導入授業として、前期で踏まえた読書経験と知識を土台に更なる発展を促した。 ②前期より難易度の高い2冊の小説を取り扱い、文学的批評を紹介し、映画の解釈と比較も学生に行わせた。 ③レポートに比重を置いたので、毎回のレポートの採点や、最後に提出するレポートの添削を行った。 ④図書館の多読コーナーへの誘導を行い、学生に読書を促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	44名中、秀が17名、優が14名、良が9名、可が1名、不可(300)が3名で、不可の学生は基本的に留学中や、大学に来なくなった学生、退学した学生である。到達度自己評価では(1)自分なりの目標を達成したと感じている学生は、40名中①0名、②0名、③13名、④23名⑤4名であった。自由記述ではほとんどの学生がこの授業を通して「文学に興味がわいた」と回答した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必修の科目なので、文学を選択したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、専門基礎科目となるこの講義に置いてどの学生にも教養としての文学の知識や楽しみを教授できたのは良かったと思う。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	特にレポート作成などに関しては、図書館の利用を促したものの、40名中利用したと回答したものは15名にとどまったのは残念な結果であった。しかしながら前回の3名からは劇的な増加であり、授業の中で本を読み予復讐をすることで手一杯であるので、今後3、4年生となった時に図書館を自発的に利用してくれることを期待したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	目標達成や、学習量などにおいては主旨目標は達成されたが、レポートの内容や形式に関する改善点はまだ熟考の余地がある。また授業中に話し合いや発表など学生のグループワークを促す時間もあれば更に良い。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英米文学特殊講義	3・4	後期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①英米文学の中から、主要な詩人たちとその作品をテーマに講義し、購読、鑑賞した。 ②詩の技法や鑑賞法を学習していく中で、音やリズムに親しむために欧米のポップソングのリスニング練習を行った。 ③受講動機を見てみると①必修科目0%、資格取得に必要13%、関心のある内容41%、単位数の確保46%であった。学生のコースによっては必ずしも必修とは限らないこの講義に置いて、関心があるからと、単位確保でなんとなくだった学生が半々であった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成度自己評価の項目に置いては、例えば「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」において23名中③5名④8名⑤10名となっており、詩の技法や鑑賞方法などの明確な目標は達成したものと思われる。また、成績は、25名中、秀14名、優8名、良3名となっており、ほとんどの学生が優秀な成績を収めた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の専門展開科目であるこの授業は、ほとんどの学生にとっては選択科目となっており、基本的に2年時で英語文学入門などで文学が好きだった学生が選択してくる。また教職をとる学生にとっては必修であり、万人に向けたレベルよというより、英語を専門とした社会人に通用するレベルの講義とした。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	自由記述には「毎回授業の最初に流す洋楽も聴いた曲があり面白かったです」など音楽や詩をCDで聞いたことに対する肯定的な意見が多かった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	最後の5回の授業の後半をオールテストに当てた。これは詩を暗記するのに絶好の機会であり、どの学生も内容自体はよく暗唱していた。また発音がいいものの学生が何名かいた過去の経験から、図書館でCDを聞くことを促した結果、ほとんどの学生の発音もよかった。去年の自由記述には、「テストの時に詩を全部暗記する理由がよくわからなかった」との指摘があったため、最初の授業で詩を暗記するの意義を説明したので、それで納得した学生だけが受講したためか、不満もなく満足の声が多かった。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	那須 省一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用時事英語	2・3・4	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	単位数を確保するために受講した学生が多数を占め、関心があるからと答えた学生がそれに続いた。授業では現代のメディアに登場する英語の理解に役立てるように工夫したつもりである。このため、英字新聞の実際の紙面のプリントアウトを配布して興味をかきたてた。授業のつど配布した英語の四コマ漫画も彼女たちの英語表現に対する興味・関心を高めたのではないかと考えている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価ではネガティブな回答は皆無だった。定期試験実施までに2回実施した小テストでもほぼ全員の学生が点数をアップさせていた。さらに定期試験では全員が60点以上を得点し、高得点者も多かった。到達度自己評価でも「自分なりの目標を達成した」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と大多数の学生が前向きに回答していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	時事英語に通じていることはどのような仕事に従事するにせよ大きな力となる。入門講座で得た知識をさらに強化するのは大切なことだと思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価においてもネガティブな回答は皆無で、「テストや提出物などの評価基準は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」と回答した学生が多かった。学生の自由記述で「担当教員への意見」として「先生の授業おもしろくてわかりやすかったです」と記してくれた学生がいた。このような一言に接すると、（非常勤）講師としての仕事が報われた思いがする。感謝。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	この講座で目指したことはほぼ達成できたと考えている。「職業選択の参考になった」と回答した学生が多かったことも講師として大いに勇気づけられた。ただし、授業の予習、復習をしなかったと回答した学生が少なからずいたことは残念だった。学習の参考に図書館やインターネットのホームページなどを利用した学生が少数派だったことも悔いとして残る。この授業のために学生が自由に講師（私）に質問・問い合わせのメールを送ることができるGmaiのメルアドを設け、学生に利用を呼びかけたが、残念ながら質問等が寄せられることはなかった。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
韓国の社会と文化	1・2・3・4	後期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国の社会・文化全般にわたる概論としての授業であるため「現在の韓国」について取り上げた。学生の受講動機は「関心のある内容である」が68.8%と多く、グループ発表を重視する評価をしているため、毎講義のテーマについて自発的に調べるように誘導した。これによって韓国に対する知識を培うことはもちろん、これから学生たちにあるであろうプレゼンテーション能力を養うことができたと自己評価している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の平均成績は73.49であった。 到達度自己評価の全項目にわたり高い満足度が見られる。概論の授業として「1. 自分なりの目標を達成した」と「2.知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」での高い平均点からもわかるように所定の成果を得られたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみでの内容の妥当性 「授業の質評価」での高い評価が示すように学習の範囲や課題を明確に提示し授業中の説明も明瞭に伝わるよう視覚資料や聴覚資料を用いる工夫をした。また当初の計画通り授業を進めたため、学生たちの満足度が高かった。 ②DP、行動目標からみでの内容の妥当性 予習や復習に時間を割くよりグループ発表での調べ物に力を入れるように指導した。シラバスに明記しているように「自発的な授業参加」を促した。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	昨年に引き続き授業運営に容易な受講人数であったため、きめ細かな指導ができた。このことは「授業の質の評価」の高い平均点からも窺える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生からの「到達度自己評価」や「授業の質の評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容だったと自己評価している。西南女学院大学における講義は2017年度まで担当することとなったが、満足いく結果を得ることができた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎演習 I	1	後期	必修	はい	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①大学での学習に必要な学ぶ技術の基本を身につけることができたようにした。 ②パソコン室を利用したり、パソコンを使ったプレゼンやレポートを課し、パソコン技術を向上できるようにした。 ③プレゼンテーションが自信を持って行えるように、その心構えや効果的な発表の仕方を学べるようにした。 ④マナーを重視し、大学生女子としての品格をあげれるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価に置いてほとんどの数値は4.0-4.2であり、授業の質評価は4.2から4.3などと高評価であり、実際の成績も48名中秀34名、不可なしと好成績であったため。また講義全体やプレゼン中も挙手による活発な質疑がなされた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の演習・研究にあたるこの授業は、大学での勉強を始めるのに基礎中の基礎をなすものであり、成績、授業態度、評価もすべてよかったことから、内容は妥当だったのではと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生たちは、この授業の集大成として最後にパワーポイントでプレゼンテーションを行った。パワーポイントでのプレゼンも大学生になってからが初めてという学生がほとんどであったが、学生たちや悔しい思いや達成感を味わいながら乗り越えていったように思われる。たくさんの学生がたくさん記入した自由記述には、「プレゼンテーションとても面白かったです」「みんな私の話を集中して聞いてくれてコメントも沢山もらったのでやりがいがありました」やプレゼンテーションの仕方を効果的に学んだことへの意見が多かった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	大学生生活のスタート時点でこの講義ができれば更に良いスタートが切れると思っていたが、将来的なカリキュラム編成では現行では1年生後期であったが、1年生前期の「初年次セミナー」として生まれ変わるので良い改善だと思う。教師が常識的なパソコン技術しかないのも、何か一般人を超えるほどのパソコン技術を習得する機会があれば勉強したいと思いつつも校務が忙しすぎて研究すら追いつかない。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	英語学科の平均点は80.56であり、全体の平均値79.86を0.7ポイント上まわる。なかなか良好であったといえよう。1人を除いて残りはみな80点以上であった。学生の自己評価も3.7～3.9というあたりであり、おおむね「わりにそう思う」「かなりそう思う」に集中しているのも実感としてよかったのだと思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価についてはほぼ「まあまあ」以上なので学生の評価は高い と思う。平均値は3.8～3.9というところであった。まだまだ、図書館利用 も、学習時間も克く確保している学生がいるので、まずまずの成果は得 られたが、自主的な学修活動にはまだ課題がある。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	おおむね良好であったと思うが、主体的に資料などを自分で探索して いくように支援したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していたが、講義は全学科共通のため120人という規模なので一部からは私語が気になるという声も聞かれた。その学生には私語についての説明を行うとともに、将来的に教職に就く人間を育てるのであるから自主的に私語を控える姿勢を身につけさせることを意図し、私語についても教材化して議論させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験成績の平均は78.59であり、全体の平均点79.23に比して0.64ポイント低であり、学科として特に問題はない。理想的と言える80点以上の学生は17名中10名の半数を超えている。記述式の試験をおこなったので、この数値は期待した知識理解に関してじゅうぶんではないが、目標の水準は達成したと見るのが妥当と言える。 学生の自己評価でも、各項目に於いて「まあまあそうだと思う」以上にほとんどの学生が「わりに」「かなり」に記入した学生は「まあまあ」と書いた学生を上まわっている。その平均値は3.9～4.2であり、昨年度よりも学生の達成感0.3ポイント高くなっている。 授業に対する評価は4.1～4.2であり、学生の評価は高いと思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業評価については4.1～4.2の評価であり、昨年より0.4～0.5上昇した。授業の質があがったからだと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	質の高い授業が実を結んだとは言えるが、全学科平均より少し下まわる。学科特有の問題があるのかもしれない。また、対話的な学びの要素を含む授業改革に努めたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○秀12.5%、優12.5%、良31.3%、可37.5%、不可6.2%であった。 ○秀の割合が比較的高かったが、同時に可の割合が高かった。やや二極化しているのかもしれない。 ○可の学生は授業中に範囲を明確に予告した基礎的問題の正答率が低く、授業参加態度だけでなく試験前の自己学習に問題があるのかもしれない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	○次年度以降は教職コアカリキュラムに対応した授業への変更が予定されている。 ○上記との関係から、総花的な知識の習得の割合が増加することが予想されるため、それらの知識を教職イメージとどのように結びつけるかという、授業以外での 教職課程履修指導との連動が求められるだろう。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	○今年度の英語学科は成果を上げた者の割合が比較的高かった。次年度以降も秀優の割合を増やし、できるだけ二極化しないよう全体的な底上げを図りたい。特 に学級経営など生徒との直接的なかわり強い免許であることを意識させ、自分の問題として受講できるようつとめたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習(中・高)	4	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	他の担当教員と協力して、授業内容を調整しながら進めた。
---	-----------------------------

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、内容的妥当性に関しても、おおむね高い授業であったと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、内容的妥当性に関しても、おおむね高い授業であったと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	第14回目、15回目の授業で、主担当を務め、学生によるポスター発表の場を設けた。この形式に関して、看護学科の学生から、ポスター制作作業に否定的な意見が多少見られた(国家試験直前だったため)。来年度以降は、この点に関する改善が望まれる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	他の担当教員と協力して、授業内容を調整しながら進めた結果、おおむね満足できるレベルの授業のデザイン・運営ができたと考えている。来年度は担当から外れるが、教員同士の協力により、よりよい授業の実現に努めていただきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1・2・3・4	後期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者には、夏休み明けと後期末における体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、実体験した運動量と、自己の身体組成や健康度との関係が把握できるようにした。 ②各受講者は、自己の体格に合わせた最適運動量を算定し、各自にカロリーカウンターを貸し出し装着させ、毎時間の自己の運動量を記録し把握させ、運動意欲を喚起した。 ③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ④健康科学実習Ⅱでは、職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。 自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①33名が受講し、最終的な成績の平均値は84点であり、再試対象は0名で履修放棄2名あった。全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは22名と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。48%の学生が資格取得を目的とし、目的は様々であった。 ②目標に関して次の目標ように思った人数では、アンケート28名中、達成した25名、知識の取得29名、理解思考力アップ25名、課題解決できた28名、判断25、力獲得26名、意欲向上27名、技術獲得26名、コミュニケーション力獲得26名、職業倫理行動規範学習27名、職業選択の参考26名と非常に様々な学習効果があったと考える。 ③授業の質を以下のように思った学生数は、回答者28名中、評価基準明確27名、学習課題明確27名、分かりやすい説明27名、学生の意見交換発表の場あり25名、質疑応答の場あり26名と答えており、ほぼ質的によい状況と考える。 ④学習量では30名中、全く予習しなかった者17名、復習しなかった者20名、記録をしなかった者12名、授業以外の学習なし20名と、普段の生活での身体活動遂行には至っていないと思われる。 ⑤授業の情報利用に関して回答者28名中、シラバスを参考にしなかった者は18名、授業計画を立てなかった者16名、シラバスで受講計画した者23名中16名、教員の説明で受講は23名中16名で、半数がシラバスを参考にし、加えて教員の説明も重要と考える。 ⑥授業に関連した図書館の利用をしなかったもの者(28名中)は26名、データベース利用しなかった者0名、インターネット検索0名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、管理栄養士としての運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。
-------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代ビジネス人材論	2・3・4	後期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業では、テーマ項目毎に、基礎情報の提供から実際に能力・知識・技法の基本的な活用ができる段階まで展開することに努めた。 学修準備性に関しては、就業意識をこれから向上させる段階の2年生の履修が多いため、特に予習を課さず、自発的に次回テーマの関連項目に目を通す程度の提案にとどめた。復習については、学修事項を宿題で確認すると共に、通期で社会人基礎力の継続的な向上努力を意識づけるよう指導した。 授業項目である各種技法・知識については、実人生で必要になるまで保管できるよう、配付資料の構成に配慮した。 例年、大半の学生に学術的内容・自己紹介文などのまとまった内容を表現する際、文章作成において適切な日本語を使用できないという弱点が見られるため、授業では、文章・書類・口頭発表原稿作成にやや傾斜した演習内容を導入している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	当科目は、就業へ向けてのレディネスを高める事を目標としており、扱うテーマが多岐にわたっている。これにより、知識理解、思考・判断、態度、技能表現において、個々の学生の従前の学習や体験の中身によって、課題毎の学習効果が左右される傾向が見られる。このため、学生が授業を通じて実感する達成感(手応え)と、授業で得られる知識の定着度を見る期末試験の評価、成果物やパフォーマンスから教員が判定する実践的対処力への評価のベストミックスによる成績評価に努めた。成績評価の20%を占めるレポートの評価は、ルーブリックを基本としつつ、アナログ的评价が必要と思われる観点については講評を付して評価を行った。 以上の結果、A、Bが17名的一方、Cが2名、D、Fが11名であった。出席率がよく課題提出にも積極的に取り組んでいた層と、欠席が多く課題提出状況が思わしくない層との二極化が顕著となった。この状況で全体を通した評価を「やや達成された」としたのは、学生の自己評価が平均で4.0～4.1であったことに基づいている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1については、日本産業界の現状と変化の方向性を踏まえた上で、DP5をも視野に入れた演習課題を織り込むことで、就業に向けてのレディネスを高めることができたと考える。加えて、英語によるビジネスコミュニケーションの手法を学ぶことで、「英語を使って仕事をする」という目標につながるDP1-2、並びにDP4が目指すグローバル社会において協働を推進する資質の育成を図った。 DP2については、産業界、企業をとりまく理念と法制の基本を学ぶことに重点を置き、日本における女性の就労に関わる問題点への考察を促した。 DP5では、英語学科の学生に求められるコレポンやメールのやりとり、英語に限らず社会人として必要な技能となる定型的事務文書作成について演習した。また、ネットや文献から情報を得、自ら考察を加えるという課題への取り組みと、ビジネス処理における基本技法の応用を織り込むよう心掛けた。 以上により、専門展開科目として、またカリキュラムマップにおいても妥当な内容であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業については、毎年度、過年度の学生からの意見を基に修正を図っており、「授業の質」評価のポイントも微増してきている。今期は、再試験もしくは持ち込み可として試験を実施してほしいという意見があったが、例えば講義で取り上げた労働基準法、男女雇用機会均等法の改正内容、企業活動についてのキーワード、企業会計などについての理解は、今後のキャリア全体を通した定着がカギであり、一過性の試験対策で済ませてほしくない内容であり、かつ半期の学修で定着できなかったものを再試験までの短期に定着はできない、という判断に基づいて、定期試験のみとしていることを理解してほしい。 授業内容について、将来に向けて役立てられるという肯定的な記述も得られているので、幾ばくかは学生諸君の役に立てたのではないかと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	就活や実際のビジネスで必要とされる文書作成技法や特徴的な各種基本技法については、実際に演習を行い、ビジネス実務に特化した資料も提供しているため、今後は各自必要に応じて活用し、習熟していつもらえるものと期待している。その意味では、基礎的学修事項は概ね理解してもらえたと思っている。 ただ、授業中に扱った論点や問題点についての発問や投げかけへの反応、レポートテーマの論述において、企図した程までには考察力の向上が見られなかった。今後学生諸君には、関心ある分野の専門書籍を精読したり、日常的に複数の新聞の論調を比較し、自らの見解を論理的に構築したりするなどの経験を積んでいてほしい。また、総じて日本語の記述に問題が散見されるため、ES原稿やレポートへの添削内容を再確認し、文章作成の際に「ねじれ文」を引き起こさないなど、細心の注意を払ってほしい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	福田 猛仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際関係入門	2・3・4	後期	選択	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①例年、学生たちが本講を受講する動機として、「関心のある内容である」ことがあげられることが多い(昨年度も受講理由の2番目に位置している)。このような受講生への国際関係への興味・関心にこたえるため、国際関係の理論的な解説を行った後は、受講生が興味を持っていうような最新の国際情勢を取り上げ扱うようにした。また、講義中、興味のある事例・現象・事件などを受講生に尋ね、授業内容に極力取り入れるようにした。 ②毎回、講義内容に関連する書籍・映画・テレビ番組を講義中に取り上げ、書籍の内容を紹介したり映像を鑑賞して、授業が口頭による解説のみに依拠した平板なものにならないよう取り組んだ。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本講の達成目標として、「国際関係論に関する基礎的な知識を駆使して、国際的な現象を『自分なりの視座』から分析し、『自分のことば』で論じることができる」ことを掲げた。 うち前段の「国際関係論に関する基礎的な知識」の習得に関しては、試験の知識問題での得点平均が38.2点と、想定していた平均点(30点)を大きく超えることができた。これは、講義初回で試験では基礎的事項の暗記・理解を問う問題が半分を占めることを明確に提示したこと、毎回の講義でも配布資料やPPの中で「覚えるべきこと」と「そうでないもの」を明記し、受講生にどこを勉強すべきかをはっきり示したことが大きいと考えられる。 一方、後段の「国際的な現象を『自分なりの視座』から分析し、『自分のことば』で論じること」に関しては、試験の記述問題での得点平均が21.6点と、想定していた平均点(30点)を大きく割り込んだ。これは、講義で学んだ国際関係論の理論的枠組みを応用するまでに咀嚼理解されていないことと、文章表現の稚拙さというテクニカルな要因によるものであると考えられる。前者に関しては、国際関係上の事例・現象・事件を講義中に学んだ理論的枠組みから捉えなおすと、自分自身の当初の印象とどう変わるかを見つめなおす機会を講義中に設けることで、後者に関しては、コメントカード・レポートの添削を行うことで対応したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップから見た内容妥当性 本講は選択科目であり、受講する学生の多くは国際関係論を専門にする学生ではない。しかし、彼女らの多くは欧米諸国を中心に、海外の言語・文化・歴史・社会に興味を持つ学生たちである。講義内容には、純粋な国際関係マターだけではなく、そのマターの背景に存在する文化・歴史・社会的要因を極力取り込むよう努力をしており、内容的妥当性に問題はないと考える。 ②DP・行動目標から見た内容妥当性 DP・行動目標に関しては、思考判断に関する達成度において課題を残した。ただこの点は、本講のDP・行動の目標の内容の問題ではなく、その達成を目指すうえで方法論上の問題であると考ええる。 ③まとめ 以上から内容妥当性には問題がないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業では、映像や写真を使用して国際関係上の基本的な出来事や事件を説明する機会を多く取り入れた。受講生には、世界史の基礎的な知識を持たない者や、重 要な国際関係上の事件や出来事を知らない者もいたが、映像や写真を使った解説は、こういった受講生たちから概ね好評だったと思う。ただ映像や写真の使用方 法に関しては、その見せ方や使用機材の使用方も含めてまだ不慣れな点が多い。今後の課題にしたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	英語学科の選択科目として、受講生らの海外への関心を高め、国際関係上の基礎事項や国際関係論の理論枠組みに関する基本的な知識を習得してもらうこと には一定程度成功したと思う。ただし、国際的な現象を「自分なりの視座」から分析し、「自分のことば」で論じることができる能力の育成に関しては課題を残している。 この点に関しては、講義内でのディスカッションの時間帯を定期的敵に設けると、レポートの作成提出とそれへのフィードバックを行うことで改善していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は教職課程を履修している学生にとっての必修科目で、それ以外の学生は履修していない。よって、受講生の受講動機や学習準備状況には大きな開きがないので、共通の目標や内容をもって指導するよう準備した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、全員が概ね理想的レベルに達しており、また再試対象者は0名だったことから、目標は概ね達成できたと考える。また、到達度自己評価についても1名が「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」という項目について「少しそうではないと思う」と回答している以外は、全員が全項目について「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、このことから教育目標は概ね達成できたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付けから見ての内容的妥当性 本科目は、教職課程の必修科目であり、教育実習の事前と事後に実施され、教育実習での学びを深めるための科目である。教育実習に参加するにあたっての事前指導、事後の振り返り等を行った。受講生は教育実習で一定の成果を上げ、本科目においても一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 教育実習の評価や本科目の成績評価から、態度、技能表現について一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「口頭、文書など、なんらかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」に1名が「少しそうでないと思う」と回答していた以外は、全員が全項目について「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答していた。ほぼ毎回、質問をする機会が設けていたので、この回答は理解し難いが、質問し難いと感じていた可能性もあるので、質問しやすい方法を今後は工夫したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	すべての学生が教育実習で一定以上の評価を得られたことから、この科目が一定の成果を上げたと言えると思う。しかしながら、オムニバス形式であるため、授業の形式や内容が毎回大きく異なるので、学生は学修の方法に戸惑うこともあったのではないかと想像出来る。そのため、授業の質評価については、「かなりそうだと思う」との回答がなかったのではないかと考えられる。学生がもっと学修しやすいような実施の方法を工夫したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	那須 省一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
時事英語研究Ⅱ	3・4	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講理由は「単位数を確保する」が大多数を占めた。学生がこれまで習得したと思われる時事英語に関する知識・表現をさらに深めることを狙いとした。授業では講師(私)の新聞記者の経験を交えながら、国際社会で使われている英語に対する興味・関心を高めるように努力したつもりである。スマートフォンなどで英語メディアに普段から接するようにも訴えた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験までに2回の小テストを実施したが、努力(学習の成果)の跡が見られない学生が散見されたのはとても残念だった。定期試験でも最低ラインの6割に達することができなかった学生が5人もいたことは、(非常勤)講師として初めての経験だった。今も忸怩たる思いをしている。到達度自己評価でも「自分なりの目標を達成した」と回答した学生が多数を占めるなか、「職業選択の参考にならなかった」と考えた学生が2人もいたことは非常に残念であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「自分なりの目標を達成した」「コミュニケーション力を高めることができた」と振り返っている学生が大多数であることから、本講座自体の価値・意義はあると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の回答を見ると、大多数は「テストなどの評価基準は明らかであった」「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」と前向きに回答していた。しかし、「説明が理解しやすいものであったか」との質問に対し、2人の学生が「少しそうでないと思う」と回答していた。自由記述の項での学生のコメントがゼロだったことを踏まえ、今後の反省・教訓にしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業のための予習・復習を怠った学生が半数近くに上ったこと、図書館やインターネットのホームページを学習に活用したと答えた学生が少なかったことは残念でならない。(非常勤)講師としての私の未熟さを露呈していたのでもあろう。大いに反省し、今後の糧にしたい。なお、この授業のために学生が自由に講師(私)に質問・問い合わせのメールを送ることができるGmaiのメルアドを設け、学生に利用を呼びかけたが、残念ながら質問等が寄せられることはなかった。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小学校英語教育研究	3・4	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 受講生のほとんどは、前期の「小学校英語教育入門」を受講していた学生であるので、ある程度共通の知識があることはわかっていた。よって、それらの知識をもとに、さらに理解が深められるよう課題などを設定した。 ② 約半数の学生が受講動機として「単位数を確保する」を選んでい一方、「資格取得に必要なである」「関心のある内容である」という学生もそれぞれ3割近くいるので、最低限必要な理解と、発展的なものとの区別がわかりやすいように授業を準備した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.0点で、ほとんどの学生が標準的レベルに達した。到達度自己評価については、1名を除いて全員がすべての項目について「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と答えており、成績と達成度自己評価は矛盾しないと思われ、目標は概ね達成していると考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 受講動機に大きな開きがあり、動機づけに苦慮する面があるが、最低限必要な部分と発展的な部分とをわかりやすく示すなど工夫し、成績評価で多くの学生が達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から学生の達成度に若干の開きが見られたが、学生も一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考えます。 ③ まとめ 以上から、内容的には妥当であったと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、どの項目についてもすべての学生が「まあまあ そうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答して おり、ある程度肯定的に受け止められていると思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	半数以上の学生が単位数の確保のために履修している一方、将来の職業 選択のための必要性から受講している学生もいるため、学生のレディ ネスや動機付けに大きな開きがあり、授業運営が難しい面があるが、 ほとんどの学生は一定の成績を収めていることから、目標は概ね達成 できた。一方で、例年模擬授業については十分な準備期間が取れてい ないので、来年度からは少し早めに準備できるようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	松田 憲

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
心理学	1・2・3・4	後期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	28名中13名が履修時にシラバスを参照しており、18名が授業計画を立てたという回答があった。 学期末評価はシラバスに記載されたレポートではなく、試験に変更する旨を、講義中に複数回にわたりアナウンスしたものの、シラバスにない試験があったことに戸惑う学生が数名いたようである。来年度からは試験を行う旨を記載する。 次週の講義内容について、講義終了時に口頭で説明していたが、学生から次週に向けて何を準備してよいかわからないという声もあったことから、予習を促すためにも目次を配布したほうが良いと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価の中央値はいずれも4.0であり、やや到達されたといえる。しかし、学期末に行った試験では、講義資料持ち込み可の記号問題であったが、40点満点で平均24.1点に留まった。 受講態度については、おおむね良好であったものの、講義開始時には私語がやまずに開始が遅れることが何度あった。また、本講義は英語学科と観光文化学科の合同で行われていたためにどちらに所属する学生であるかは不明であるが、授業中に大きな声で会話する学生も少数ではあるが存在した。ただし、注意することで私語を中断するケースがほとんどであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性に問題はないと思われる。
---	---------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	受講動機に関心のある内容であることを挙げた学生も多く(15名)、「すごく楽しく学べた」というコメントもあった。問題は、10名の単位目的の学生にいかにより高いモチベーションを持ってもらえるかであるが、今年度の模擬実験やデモを多用した体験重視の側面を今後も継続していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	心理学という非常に領域の広い学問分野を15コマで網羅する必要があるため、やや詰め込み過ぎであった感が否めない。そこが、主観的な到達評価と比較して、客観的なテストの点数の低さとなって表れている可能性もある。今後はもう少し内容を絞って行っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	1・2・3・4	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①日々変化する環境問題や国際関係を取り上げるために、教科書は使用せず、適時レジュメと参考資料を配布した。②理解の難しい用語や組織、団体、事象に関しては新聞記事、インターネット、動画等を利用し、学生が取り組みやすいように工夫した。③授業内で押さえておきたい重要な項目に関しては、学生同士で積極的に議論をさせ答えを導き出し、理解と定着が確実に行えるように指導した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は61点、再試対象者は6名であった。受験者の約半数が不合格となった。標準偏差値はSは4名、Aは1名、Bは1名、Cは1名、Dは6名であった。高得点と低得点の差が開き、全体的な平均点が落ちた。授業で取り上げた環境問題や国際関係等に高い関心を示した学生が居た反面、無関心な学生も多かったことが反映されている。受講動機においても「関心のある内容である」と回答した学生がいる一方、「単位取得の為」に受講した学生が多かったのがこのような結果となったと思われる。英語学科における学生の国際情勢に関する関心の高さは必須であるため、興味が持てるような内容や指導の工夫が必要であったと思われる。しかし、DPにおいて「自分なりの目標の達成」「知識の確認、修正、新たに得る」「視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力」「的確に判断する力」「必要となる技術」等で概ね高い評価を示した学生が多かった。このDPの結果から選択科目が学生にとって新たな視点や考え方を養う良い機会であると捉え、興味や関心を持てるような工夫を授業に導入し、地道な指導を行うことが必要であると実感した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性：英語学科のCPに明記されているように「現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける」目的として、本科目は目的にかなった内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP:行動目標からみた内容的妥当性:学生は授業内容を通して現代の国際関係等への知識と理解を習得することが要求され、DPの全項目は全般的に高評価であった。シラバスには図書館、インターネット等を活用し、情報収集が必要であることを明記しているが、これらを活用した学生が皆無であった。シラバスの内容を徹底化するためにも、学生に積極的な姿勢を喚起する指導の必要性を痛感した。DPの「職業倫理」「職業選択の参考」では高い評価を示す学生が多く、英語学科の学生の学習ニーズにも合った内容となっていたと考えられる。全般的にクラスの雰囲気は不真面目な学生の行動が目立ってはいたが、真面目に取り組む学生が大半であり、良好で、真面目に学習に取り組んでいた。以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価:全項目に関して概ね多数の学生が高く評価していた。最新の情報を教材として取り上げ、また海外ボランティアやNGOで活躍する日本人の活動等を紹介したことが学生の関心を高めた結果と思われる。さらに国内外の諸問題をグループで話し合い、発表するなど学生に参加する機会を務めて作った結果が数字に表れていると思われる。②学習量の評価:授業に参加するための予習、復習をしなかった学生が大半であることから、授業中での復習を兼ねた小テストやレポートの提出を検討している。③学習のための情報利用、図書館利用:受講動機で「関心のある内容である」と全員が回答し、シラバスを通して講義の内容を理解して臨んだ学生にとっては満足度の高い講義となったと思われる。図書館利用に関しては利用者数が皆無であったことから、図書館利用を促す取り組みを行う必要性を強く感じた。また国内外の事象を学習する観点から、メディア等を利用した情報収集が学習内容の一つであることを指導強化する必要性を感じた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	選択科目は単位数を確保する目的で受講する学生が多いため、受講動機で「関心のある内容である」を挙げている学生と「単位取得」の為に受講する学生の間には関心の度合いが異なり、授業態度や成績に大きな開きが生じた。このことを踏まえて、オリエンテーションでは授業の内容や狙いを的確に伝え、学生の国内外の事象に対する関心を深めるための良い機会と捉え、授業形式の適時変化やメディアからの情報収集や図書館利用の強化を促したい。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	浅羽 修丈

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活の中の数学	3・4	後期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、数学について学習する授業であるが、複雑な計算問題や公式への当てはめなどに重点を置くのではなく、普段の生活の中に出てくる数学や生活の中で必要となる数学的思考法に重点を置いて解説することを心掛けた。 第1回目の授業時に、数学に関連する質問をしたところ、多くの受講生が数学は苦手であることが分かった。また、「受講動機」において、81.0%の受講生が、単位数を確保するために受講したと回答している。さらに、関心のある内容であると回答した受講生は、わずか14.3%であった。これらの事実から、受講生の多くは、消極的な動機で受講していることが分かる。そのため、本授業では、初等・中等教育機関で学んできた数学のイメージから脱し、身近な事例を交えつつ平易に解説していくことで、苦手意識を少しでも払拭し、興味や関心を惹きつける授業を心掛けた。また、生活の中の様々な事象と数学とを結びつけることで、数学を実場面で活用できるように、授業を設計した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない		やや達成された	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	まずは、「全体を通して」について検討する。最終的な成績の平均値は、73.1点であった。この数値だけを見ると、受講生は標準レベルに達したと判断できる。しかし、成績の内訳は、Sが5名、Aが4名、Bが5名、Cが8名、Dが3名であり、凹型の成績分布となった。特に、Cの受講生が最も多かったことが悔やまれる。その原因のひとつが、出席率である。出席指導により、昨年度よりはだいぶ良くなっているが、まだまだ欠席数が多いことは事実である。一方で、SとAを合わせると9名であり、成績が優秀な受講生も多かった。これらのことから、全体を通しての達成度を「どちらともいえない」とした。 「思考判断」について検討すると、授業評価アンケートの達成度自己評価の(4)「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、及び、(5)「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の2つの項目の平均値が、それぞれ4.1と4.0であり、良い評価を得ることができた。そのため、「思考判断」をやや達成されたと判断した。 「意欲関心」について検討すると、授業評価アンケートの自由記述において、「数学が苦手だけど単位のために履修させて頂いたのですが、想像よりもはかにおもしろく分かりやすかったです。」「難しい内容をわかりやすく、おもしろく説明してもらえて理解しやすかったです。」など、前向きな意見を頂けた。この点から、意欲関心を惹く授業ができたのではないかと感じている。 「技能表現」について検討すると、授業評価アンケートの達成度自己評価の(7)「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」という項目の平均値が4.0であり、良い評価を得ることができた。このことを踏まえて、「技能表現」をやや達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、英語学科の専門性からは、離れた内容となっている。そのため、CP・DPの観点から、教養を広める科目という位置付けであると判断できる。そこで、本授業では、数学の専門性を高める内容ではなく、普段の生活の中で困らない程度の数学的思考判断力、技能表現力を身につける内容を提供してきた。授業評価アンケートの到達度自己評価では、全ての項目で4.0を超えていることに加えて、自由記述では「主に思考の課題で社会的な授業だった」とあった。この点から、本科目の内容は、妥当性が高かったと判断できる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価の項目は、全て4.1であり、良い評価を得ることができた。すなわち、課題の評価基準や範囲、説明の仕方、学習者が参加する機会を設けるといった授業の進め方については、大きな問題なく運営できたと捉えることができる。 しかし、「学習量の評価」を見ると、事前・事後学習が十分でないことが伺える。この観点から、事前・事後学習を促す指導を検討すべきであると考ええる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	昨年度の同授業では、成績が優秀な受講生と芳しくない受講生との差が大きく、両極端であった。そのため、今年度の授業では、毎回の授業での課題を総復習する時間を設けた。その成果として、課題の得点が芳しくない受講生の底上げができたと考えている。 しかし、まだ幾つかの課題が残っている。一つは、昨年度に引き続いて、出席率が悪い受講生がいることである。昨年度に「出席率を向上させるための工夫」を課題として取り上げたが、十分に達成できたといえない。二つ目に、事前・事後学習の促進である。多くの受講生が、事前・事後学習を行っていないことが、授業評価アンケートの結果から読み取ることができる。 今後は、これらの課題の解決に取り組み、授業改善に努めたいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This zemi was based around using media to study English. They used movies, podcasts, audio books, and so on to build their English skills through studying the vocabulary and English used.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Attendance was no problem and when given specific tasks they completed them well. They needed to focus on self-paced learning more as motivation was sometimes lacking.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1, DP3, and DP5 were achieved. DP2 needed work as they relied on others for leadership, and DP5 was a little weaker than it should be because of this.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Nothing in particular
---	-----------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	This year's topic was a good one, and for this coming year they will do a similar focus, though will concentrate on skills a bit more.
-----------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機を見ると「必修科目である」100%「関心のある内容である」0%であった。ゼミ選択の動機としてはやや残念な結果である。②授業の初めに新聞を分析発表する活動をし、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。③春休みの課題を出し、卒業論文のウォームアップへと繋げた。④就職課と連携し、グループ面接の練習をしてもらうなど、4年次から就職活動を具体的に開始した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだため、成績は「優」とした。学生の到達度自己評価によると全員の学生が、(1)から(10)の項目で「まあまあと思う」(1人)「割りにそうだと思う」(3名)「かなりそうだと思う」(2人)を選択している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ても内容的妥当性:ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみても内容的妥当性:内容的に妥当である。③問題なし
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の項目においては、すべての項目において、学生全員が「まあまあそうだと思う」(1人)「わりにどうだと思う」(2人)「かなりそうだと思う」(3人)を選択している。自由記述には、「イギリス文学について様々なことを学ぶことができました」などがあつた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	図書館利用が、「利用しなかった」と選択した学生が6名中2名だったのは、文学のゼミという特性上、残念である。特に二年目からは卒論に向けた指導を具体化させていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒論執筆に向けて「ロジカル・ライティング」をテーマとして設定した。演習形式で、研究のデザインの仕方・進め方などを具体的に学び、各自の研究テーマを設定した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、アカデミック・ライティングのスキルの向上をめざした本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	自由記述でほぼ全員が授業に関して高い評価を与えていることから考えて、特に改善課題はないと思われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、アカデミック・ライティングのスキルの向上をめざした本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。学生全員を同じように満足させる授業をデザイン・運営することは決して容易なことではないが、その実現を目指し努力を続けていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。 ② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流の機会や市民向けのワークショップの企画を学生自らが体験出来る機会を設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業での発表等については、全員が標準的レベル以上に達していた。また学生の到達度自己評価では、すべてのの学生がすべての項目について、「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答していることから、目標は達成できていると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、すべての項目についてすべての学生が肯定的な回答をしている。しかしながら、学習量が十分とはいえない学生もいたので、取り組みやすい課題を準備するなどして対応したい。 図書館の利用については、多くの学生が図書館の図書や雑誌を利用しておらず、学術データベースについては全員の学生が利用していなかった。図書館の利用についての指導は行ったが、実施が遅かったことが原因と考えられる。来年度は十分な時間をとって指導できるよう計画したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	来年度の卒業研究へと続いていく科目であり、卒業論文を書くために必要なことを学ぶ場である。そのために必要な知識や技術等を身につけられるよう授業を実施したが、図書館の利用については指導が十分ではなかったので、卒業演習の授業で補っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This year, the focus was almost entirely on completing their sotsuron studies and report, though each week supplementary activities were completed.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Though distracted by job hunting, this class generally worked well towards achieving their goals.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Generally this class worked very well, particularly after the influx of 4 serious students from Prof. Abe's class. They supported each other very well and developed an excellent class spirit.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Nothing in particular
--	-----------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	Nothing in particular
-----------------------	-----------------------

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機を見ると「必修科目である」100%「関心のある内容である」0%であった。ゼミ選択の動機としてはやや残念な結果である。ちなみにオリジナルメンバーは全員第一希望でこのゼミに入り、残り二人は阿部先生ゼミからの移動である。②授業の初めに就職希望先に関係ある新聞を分析発表する活動をし、就活の面接対策にした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだため、成績は「優」とした。学生の到達度自己評価によると全員の学生が、(1)から(10)の項目で「まあまあそうだと思う」「割りにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ても内容的妥当性:ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみても内容的妥当性:内容的に妥当である。③問題なし
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の項目においては、すべての項目において、学生全員が「まあまあ そうだと思う」「わりにどうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択している。 自由記述には、「忙しかった」「課題でいっぱいだった」などがあつた。4年生という 就職活動などで忙しい中だったので、来年は課題の分量を減らしたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	図書館利用が、「利用しなかった」と選択した学生が6名中4名だったのは、文学の ゼミという特性上、残念である。しかしながら、ゼミ自体でも新聞に加え、洋書と 和書の2冊を同時に扱っており、自由記述にも「課題でいっぱいになってしまった」と あるように、学生の学習量としては限界である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業論文の完成まで、授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、個別対応の指導を課外授業という形で行った。各履修生が選んだテーマを最大限に尊重することで、卒業論文執筆への意欲を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今学期は受講生が9名と多めだったが、各学生の指導時間をしっかりと確保できたと思う。来年度以降も、各学生を指導する時間をしっかりと確保できるように努めていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本科目の達成度・満足度は、高かったと考えられる。来年度以降も、各学生を指導する時間をしっかりと確保できるように努めていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	アメリカをゼミの共通テーマとして取りあげ、自分自身と何らかのつながりを持たせた上でアメリカンの何かについて卒論テーマを選ぶように指導した。ゼミ生の中に、精神的なケアが必要が学生がおり、学生相談室とも連携を取りながら、彼女の卒業を最優先にした指導を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が締切までに卒業論文を完成させることができた。しかし、いくら指導しても教員の思うような進捗が得られない学生も多々いたので、「やや達成」という評価に留める。担当教員へのコメントに感謝の気持ちも述べられているので、成功だとは思っている。大所帯のゼミだが、自分としてもよく対応したと自負する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。
--	--------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	卒業論文とは言っても、その質は決して高いものではなく、日々の新聞などで解説や論考が述べられている程度の深さにも届かないような仕上がりのももある。そしてそれは彼女らの全力を尽くした結果であるため、単位認定をするのにためらいはないが、何か違う工夫ができないか、とは思う。 例えば、地域貢献活動を行って、それを通じて感じたこと学んだことを文章や資料としてまとめる、という体験に基づいた学習の方が、学生にとってにはメリットがあるのかもしれない。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標は達成された。現状の枠内で改善できる部分は改善して、提出のための提出、卒論のための卒論ではなく、少しでも現状より、学生達の成長につながるような方法を模索したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語Ⅱ	1・2・3・4	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語Ⅱの概要及び達成すべき目標とは、「勉強の継続性を考え、より一層高い講読力、聴取力及び会話力を養うことを教授する。中国語に対し関心をもち、豊かな表現を楽しみながら、語彙と文型の学習をする」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の60.0%を除いて、③「関心のある内容である」も56.0であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてもう少し考慮していく必要があると考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は83.1点であった。標準的レベルを超えていた。 2. (DP-1)の知識理解をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週4回以上の準備を2人、3回以上を5人が行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成した学生が半数以上という成果が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点3.3点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.0点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1.「授業の質の評価」について、值的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2.「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次 年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3.「図書館やインターネット等の利用」はあまりしていないという結果がでていた。引き続き、授業と関連 している知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	1. 中国語Ⅱは選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習 得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	家根橋 伸子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅰ	1	後期	選択	はい	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	単なる日本の歴史と文化地理に関する知識の受け取りだけではなく、アクティブラーニングを念頭に、自ら調べ、考えることを重点に置いた。単なる知識を得ることを期待していた者もあり受講動機とは必ずしも合致していたとは言えないが、初回において授業の目的と方法を学生に説明し、納得してもらったうえで発表等の活動回に入った。結果としては概ね効果的に捉えられていた。授業評価においても他の授業に比べると自主的学習に力を入れていたことがうかがえた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績は、44名中、出席不足による成績なし、不十分な発表を行った者・提出物(他の学習者の発表に対するコメント・感想カード)の記述が不十分だった者を除いて、80%がS～Aの成績となった。 ②真摯な態度で課題・発表に取り組んでいる者が多かった一方で、いい加減な取り組みの学生も見られた。後者の学生を中心に、学習量や情報利用の点でやや教師の期待より不十分であった。 ③この授業では項目3で述べたようにアクティブラーニングを念頭に自主的に調べ、考え、発表においては単なる情報提供ではなく「内容に対する思考の深さ」「独自性」を重視したが、その点でこれまでの学生と比べ十分ではなかった。 以上から、概ね目標は達成されたものの、「やや」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受け身の学習を想像していた学生側の受講動機と少々齟齬はあったものの、結果として到達度の自己評価、自由記述からカリキュラムマップにおける本科目の位置づけと照らし、内容的に妥当であったと評価できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方についての評価は概ねプラスに捉えられていた。しかし、4項で記述したように、ごく一部で取り組みがよい加減な態度の学生もあり、また学生の学習量、情報利用という点で期待した評価が出ていなかった。学生の取り組みを促すような新たな手立てが必要であると思われる。ただし、今回は2学科合同授業のため人数が多く(総数77名)、アクティブラーニング型の授業を効果的に実施することは難しい課題ではある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業評価は概ね高いものであったが、課題として以下の点が指摘できる。 ①上述したように、取り組みが十分ではない学生がいた。 ②また全体的にも学生の学習量、情報利用という点で期待した評価が出ていなかった。手軽に手に入る情報で済まそうとする学生の姿勢が散見された。 以上から、学生の自主性を尊重するだけでなく、それを促すような新たな手立てが必要であると思われる。前年度までと比して学生数が多く、きめ細かな目配りができなかった可能性もあるが、できるだけこのアクティブラーニングを通した批判的思考の育成を目指す授業形態を続けていきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	家根橋 伸子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅱ	2	後期	選択	はい	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施においては、「日本の歴史と文化地理Ⅰ」に続きアクティブラーニングを念頭に自主的に調べ、考え、発表する能力の育成を大切にするとともに、批判的思考能力の育成を目指した。しかし、英語学科の学生は昨年度私の上記授業を受けていないため(本授業は観光文化学科との合同授業)、学習準備性の点で不安があったが、授業の初回において趣旨となぜそのような授業方法をとるのかを説明した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績は、欠席が多いことによる不受験者、発表及び他者の発表へのコメントシートの内容が不十分であった者を除き、80%がS～Aという評価となった。 ②発表の評価として批判的思考を問うたが、全体的に教師が驚くほどの思考の深さや鋭い視点での資料提示・考察が提示された。 ③ただし、ごく一部の学生で不十分な発表に終わった者があり、評価をCとした。これらの学生が学習量においても当然低い評価となったと思われる。 以上から、概ね目標は達成されたものと評価した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現全てでの能力向上を目指している。項目4で示した自由記述を含む評価の結果から、本授業の内容がカリキュラムに対して内容的に妥当性があったと結論付けることができると考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	アクティブラーニングを軸とした本授業の進め方は、学生の評価からも効果的であったと言える。学生の自由記述から、本授業での発表に取り組むことで自身の関心のある事象に気づき、卒論のテーマとした学生もあり、授業が学生の総合的な知的向上に寄与したことを示すのではないと思われる。 しかし、授業の質の評価はおおむね高いものの、今学期は2学科合同授業となったため学生数が70名以上と非常に多く、一人一人に発表させ、そのうち教師からの介入によって思考を深めるというプロセスが十分にできなかったという私自身の感もある。この点がうまくいってれば少数の不十分な発表に終わった者も救えたかもしれない。短時間での教師の効果的な介入の仕方を工夫する必要があるかもしれない。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	前項で述べたように、アクティブラーニングを軸とした本授業は、ほとんどの学生たちの発表が教師の期待を超えるほど非常に質の高い発表を行い、思考の深まりを見せた。学生の自由記述から、本授業での発表に取り組むことで自身の関心のある事象に気づき、卒論のテーマとした学生もあり、授業が学生の総合的な知的向上に寄与したことを示すのではないと思われる。 しかし、授業の質の評価はおおむね高いものの、今学期は2学科合同のため学生数が70名以上と非常に多く、教師からの介入によって思考を深めるというプロセスが十分にできなかった点は残念であった。上述のように、昨年度も同程度の人数であるならば、短時間での教師の効果的な介入の仕方を工夫する必要があるかもしれない。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語学概論	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力教育検定試験の問題回答、という流れで進めた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度がある程度高い授業であったと判断される。1名の履修者から「到達度自己評価」「授業の質評価」の一部の項目で、「少しそうでないと思う」という回答が見られたため、「ある程度」という判断を下した。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語学に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、ある程度高かったと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価の中に、「無感情」というコメントがあったが、「日本語のテスト頑張ります！」「疑問に思っていた、日本語教員のテストについて具体的に知ることができました。」というコメントもあり、内容的に難しかったものの、本授業の目標は達成できたと考えられる。改善課題としては、履修生に合わせた、授業でカバーする内容の量と質のレベル調整が考えられる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語学に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、ある程度高かったと考えられる。改善課題としては、履修生に合わせた、授業でカバーする内容の量と質のレベル調整が考えられる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教育に関して「教室運営」をテーマとして選び、体験型で進めた本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今学期は受講生が13名と多めだったが、できるだけ個々の学生と対話する時間 が取れるように努めた。このことは継続していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語教育に関して、「教室運 営」をテーマとして選び、体験型で進めた今学期の授業については、高く評 価している。今回の授業で実現した、受講生とのやり取りの回数の維持を、 今後も実現していきたいと思う。
------------------------------	--